

附属病院患者さんへの情報公開用文書

「子宮頸部腺がんのバイオマーカーに関する免疫組織化学的検討」についてのご説明

1 はじめに

がんでは、遺伝子変異などの遺伝子の異常や、それにより産生されるタンパク質の影響が複雑に重なっており、がんの発症および進展に大きな役割を果たしています。このような病態を把握するためには、数多くの遺伝子および分子を含んだ網羅的な解析が必要となります。組織のタンパク質を抽出し、網羅的に同定して、その解析を行うプロテオーム解析と呼ばれる手法は、近年、様々な領域で注目を浴びています。そこで、我々は以下の研究を実施させていただきます。

2 研究内容

子宮上部の袋状の部分を子宮体部、子宮下部の管状の部分を子宮頸部と呼び、それぞれの部位に生じるがんを子宮体がん、子宮頸がんといいます。子宮頸がんは大きく頸部扁平上皮がんと頸部腺がんに分けることができます。子宮頸がんの 20-25%を占める子宮頸部腺がんというタイプのがんは、近年患者数が増加傾向にあり、特に 20~30 歳代の若い世代に増えてきています。子宮頸がんの治療方法は、手術療法、放射線療法、化学療法（抗がん剤）の 3 つを単独、もしくは組み合わせて行います。しかしながら、子宮頸部腺がんは、化学療法・放射線治療への抵抗性が高く、組織内へ浸潤する頻度も高いことから、頸部扁平上皮がんと比べて予後が悪くなっています。このことから、頸部腺がんの予後改善のために、従来の化学療法・放射線療法の枠を超えた新たな治療戦略が求められています。

また、最近、病理組織標本を作成するために保管されているホルマリン固定パラフィン包埋組織からタンパク質を抽出して、質量分析装置で測定することで組織に含まれているタンパク質を網羅的に同定するプロテオーム解析という手法が発展してきています。本研究では、子宮頸部腺がんのプロテオーム解析により得られたタンパク質の発現比較検討し、早期診断や治療標的となりうるバイオマーカータンパク質の同定を行います。得られたバイオマーカー候補の評価のために、生検もしくは手術によって摘出された組織検体を用いて、免疫組織化学染色を行います。この結果から、候補バイオマーカーの腫瘍形成や発がんへの関与、診断マーカーや治療標的としての有用性を明らかにします。

3 具体的な方法

- 1) 対象となる患者さんの当院での診療情報を収集しデータベース化します。
- 2) 既に作成されてあるホルマリン固定標本からパラフィン包埋切片を作成し、子宮頸部腺がんのタンパク質をそれぞれ抽出して、比較プロテオーム解析を行います。そこで得られた情報をもとに、バイオマーカー候補となるタンパク質を選択し、その発現態度を免疫組織化学的手法により比較検討します。

以上の方法で検索を進めますので、本研究を行なうことで患者さんに通常診療以外のいかなる肉体的、金銭的なご負担も生じることはありません。

4 対象となる患者さん

2006 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに当院で手術された患者さんの中で、本研究に適切と考えられた患者さんを対象としています。

5 患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐために、個人を特定できる情報は削除して、データの

数値化などの厳格な対策をとっています。本研究実施過程およびその結果の公表（学会発表や論文など）の際に、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

6 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の対応について

2006年1月1日から2018年12月31日までに当院で手術を受けられた患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は下記の問い合わせ・連絡先にご連絡ください。この研究の対象から除外させていただきます。ただし、ご連絡をいただいた時点で既に、研究結果が論文などに公表されている場合は、データを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができません。

7 解析予定症例数

本研究では100例の子宮頸部腺癌を解析予定としています。

8 研究期間

病院長承認日～2023年12月31日

9 医学上の貢献

子宮頸部腺癌について分子レベルでの性質を解析し、バイオマーカーとなるタンパク質を同定することにより、がんの早期から診断ができるようになる可能性、子宮頸部腺癌の発生と進展の臨床病理学的な解釈が進む可能性が考えられます。また、知見を蓄積し、治療標的として設定可能なタンパク質がバイオマーカーとして得られた場合、将来的に治療法への応用に寄与する可能性があります。

10 利用する情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別
検体：当院で保管されている病理検査スライド
画像検査：CTおよびMRI画像

11 問い合わせ・連絡先

（平日、夜間・休日とも）

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
札幌医科大学医学部病理学第二講座
高澤 啓（研究責任者）
TEL: 011-611-2111(内線 27010) FAX: 011-613-5665
E-mail: atakasawa@sapmed.ac.jp

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地
札幌医科大学医学部産婦人科学講座
秋元 太志（研究分担者）
TEL: 011-611-2111(内線 33730) FAX: 011-613-5665
E-mail: akimotsu0622@sapmed.ac.jp